


要領様式第2号

出張報告届

令和元年7月26日

吹田市議会議長様

会派名 無所属クラブ

出張者氏名 生野 秀昭 

..... 

..... 

..... 


..... 

..... 

..... 

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

|       |                          |        |   |
|-------|--------------------------|--------|---|
| 出張先   | 全国市町村国際文化研修所（大津市）        |        |   |
| 期間    | 令和元年 7月 3日から 7月 5日まで 3日間 |        |   |
| 出張の成果 | 別紙のとおり                   |        |   |
| 備考    |                          | 認<br>印 | 会派代表者   |
|       |                          |        |  |

吹田市議会事務局  
1. 26  
受付

# 研修報告書

## 全国市町村議会議員研修「社会保障・社会福祉」3日間コース

無所属クラブ 生野秀昭

日時 令和元年7月3日～7月5日（3日間）

会場 全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）

### 1日目

「2025年問題と社会保障政策」 講師 原田啓一郎氏（駒澤大学 教授）

我が国が直面する少子高齢社会の現状と、それに対応する法学の立場からの社会保障政策について。

「2025年の背景」 平均余命と平均寿命について。人生100年時代。2007年に生まれた人の余命は、日本人107歳。

「2025年問題」 社会保障財政のバランスが崩れる。第2次ベビーブーム児により支えられるが、2040年その子供たちが高齢を迎える時には、更に深刻となる。

**\*対策。共助・連携を基礎として国民一人ひとりの自立の援助**

### 2日目

「介護保険と地域包括ケアシステム」 講師 鏡 諭氏（淑徳大学 教授）

介護が必要な高齢者を社会全体で支える介護保険制度の変遷と現状について。

「地域医療の現状と課題」 講師 尾形 裕也氏（九州大学 名誉教授）

地域で安心して生活していく為の、医療計画や介護との連携、病院経営や医師確保など地域医療に関する課題について。

「認知症の基礎知識と侵攻予防の可能性」 講師 藤本 直規氏（医師）

認知症の基礎知識と社会問題、地域社会として取り組む高齢者の社会参加の観点から取り組む進行予防について。

### 3 日目

「町全体で看守るまちづくり」 講師 岩尾 聡士氏（京都大学 特命教授）

2025 年に向けて地域包括ケアシステムの構築が進められている中、医療モデルから生活モデルへの転換を目標に、これから地域で取り組む新しい挑戦「IWAO モデル」について。

#### **\* 研修を通じての感想と、今後議員としての取り組み**

今回の研修は、「2025年問題」をテーマに、地方議員として取り組むべき高齢者の医療と介護を中心とした内容の研修であった。

吹田市に於いても少子高齢の進行が大きな課題となっている中、高齢者が安心して老後を送るに当たって、サービスと保険料、給付と負担をどの様に定めるのか。

核家族化の進む都市部の吹田市にあって老々介護が問題視されており、「市町村特別事業」は、吹田市に見合った独自のものとなっているのか、国の基準に従っていないのか。市内施設のベッド数や従業員の配置基準。措置制度は如何に等々。

また介護保険は、自動車保険や高齢者医療保険制度とちがって、保険料がリスクや介護度に関係なく、高収入者は保険料が高く、利用料も2割・3割と高い。「普遍的制度」として将来持続可能な制度として継続するには、どの様に改革するのか、一議員として真剣に考え取り組み、議会を通じて行政に訴えなければならない。